

# 専念寺通信

## 専念寺通信

七月号 (NO. 95)

6月はじめに梅雨入り宣言が出され、雨模様の日が続いています。そして7月、今度は照りつける強烈な太陽と、蒸し暑い日々、みなさま、おかわりなくお過ごしですか？

### ☆夏の盆会

7月13日から15日までがお盆です。13日はお盆の入りの日。この日に、亡くなった人の魂が帰ってくると言われており、迎え火を焚きます。都会では住宅事情の関係からこの習慣は、もうなくなりましたが、マコモでできたゴザを敷いて、そこに夏野菜、素麺、ほおずきなどを供え、**精霊棚**（しょうりょうだな）を作ってお迎えする習慣はまだ残っているようです。「こちらへ来る時は速く走る馬に乗って、そして向こうへ戻っていく時はゆっくりとした牛に乗って行ってください。」という、私たち祖先の願いが、夏野菜で作る動物のかたちとなって伝えられています。**盂蘭盆会**（うらぼんえ）という言葉は、ウランバナという梵語に文字をあてはめた言葉です。意味は「倒懸（とうけん）——倒してつるす——で、次のような故事に由来します。お釈迦さまの高弟、目蓮上人が六通の神通力で亡くなった自分の母の様子を見たところ、母は地獄へ落ち、逆さ吊りの苦を受けていることを知りました。お釈迦さまにそれを告げ、救いをもとめたところ、お釈迦さまは僧侶が夏安居（げあんご）を終える7月15日に衆僧を供養すれば、母を含めたすべての祖先が成仏できると教えました。やがて、僧侶のためでなく、すべての人々の救

いのために盆会は行なわれるようになりました。現在はほとんどの地方では8月に盆会が営まれますが、東京では旧暦のままの7月です。

専念寺では、新盆を迎えられた檀家さまのための合同供養を毎年、本堂でとりおこなっております。今年は7月13日、日曜日、午前11時からのご法要となります。新盆を迎えられる檀家さまへは、お葉書でご案内申しあげました。ご参加をお待ち致しております。

### ☆ 永代供養塔移転のご報告

専念寺の墓地内にあった永代供養塔が手狭になりましたため、檀家さまのご要望もあり、このたび、寺の敷地内に移転致しました。これを機に供養塔の屋根部分を、寺院建築の型を取り入れた傾斜のあるものに変え、ぐるりに笹竹を植え、玉砂利を敷きつめて、静かな祈りの空間を作りました。この供養塔を「静寂塔・じゃくじょうとう」と名づけました。

塔婆立ても新しく作り、お盆までに完成させることができました。お参りの折りにどうぞお立ち寄りください。「静寂塔」には、まだいくらかの余裕がございます。お身内、お知り合いの方で、単身やご夫婦で供養塔を捜されている方がいらっしゃいましたら、私共へどうぞご一報ください。また、手桶の棚を一新し、より多くの檀家さまが利用しやすいように致しました。暑さにむかいます、皆さまお大切にお過ごし下さい。

平成20年7月1日 大黒

